指　導　案　に　つ　い　て

主題名は，原則として年間指導計画に記載されているものを記述する。

算用数字は，１桁の場合は全角，２桁以上の場合は半角で表記する。

四つの視点を表すアルファベットと内容項目を記述する。
※番号は記述しなくてもよい。

第５学年〇組　　道徳科学習指導案
平成〇年〇月〇日　〇曜日　第〇時
指導者　〇　〇　〇　〇

１　主　題　名　　人のために役立つ　　C　勤労，公共の精神

２　主題設定の理由

（1）価値観

勤労は，日々の糧を自ら得て自立することを目的とする。単に自分の生活の維持向上を目的とするだけではなく，働くことで得られる達成感や満足感は人の役に立つうれしさややりがいをもたらす。同時に社会への奉仕活動など公共のために役立つ活動を積み重ねることで，今日の地域社会や国家がつくられている。そこで，働くことの意義を理解し，自分の充実感を得るためだけでなく，よりよい社会をつくるために社会に奉仕しようとする意欲や態度を養いたい。

（2）児童観

本学級の児童は，校外学習やメディアを通してさまざまな仕事があることを知っている。また，勤労は，自分や家族の生活を支えていることや人の役に立つことにも気が付いている。学校生活の中では，仲間と協力して学ぶことの楽しさを通して仕事を成し遂げた際の喜びや手応えを感じ始めている。働くことや社会に奉仕することの充実感を味わうことで，勤労は，公共のために役立つことであることを捉えさせたい。同時に，みんなのために働こうとする意欲をもたせ，進んで公共のために役立とうとする態度を培うことができるようにしたい。

（3）教材観

本教材は，常滑の陶業のために尽力した伊奈長太郎の話である。長太郎は茶器を焼く家に生まれた。長太郎は土管やタイルを焼く事業を広めようと考え，アメリカへ渡り，陶業界を視察した。帰国後，長太郎はアメリカで学んだことを惜しみなく工場の参観者に見せた。５年がかりで生み出した陶土を掘るときのくずの利用方法も躊躇なく公表した。学びや研究の成果を常滑の人や国のために還元する長太郎がいたからこそ，今のわたしたちの便利な生活がある。

地域に実在した人物の話なので，児童は関心をもちやすいであろう。長太郎を児童とかけ離れた偉人として扱うのでなく，長太郎の生き方と児童の生き方をつなげて考えさせたい。

３　本時のねらい

o 働くことや社会に奉仕することの意義を理解し，公共のために役立とうとする気持ちを高める。

１時間の児童生徒の認識の過程を具体的に示す。その内容，方法については創意工夫する。

４　準備・教材

o 教材名「それでええじゃないか」　出典「明るい心」（愛知県教育振興会）
o 教師・・・ワークシート

５　関　　連

道徳　「お父さんは救急救命士」（働くことの意義）

６　学習指導過程

段階	学　習　活　動	時間	指　導　上　の　留　意　事　項
導入	1　写真を見て，登場人物について知る。 o この写真は，何の写真でしょう。 ・製品 ・工場や働く人 ・常滑工場の地図	4	o 伊奈長太郎の会社に関わりのある写真を掲示する。 o 写真を掲示することで，教材への興味付けをする。
展開	2　本教材を読み，話し合う。		o 範読をし，あらすじを確認する。
	長太郎は，どんな気持ちで工場を丁寧に説明したのでしょう。		
	・アメリカで知った工場のすばらしさを多くの人に知ってほしい。 ・全国から来た参加者の期待に応えたい。 ・自分の技術を受け継ぐ人を育てたい。 ・この技術がみんなのためになってほしい。	15	o かつての日本の工場と，アメリカの最先端の工場との違いを押さえる。 o 最先端の技術を参観者に伝えたいという長太郎の気持ちについて考えさせる。
	長太郎は，どんな思いで「それでええじゃないか」と言ってきかせたのだろう。		
	・もうけることより，人のためになる方が良い。 ・常滑の人たちが喜んでくれたらうれしい。 ・常滑が発展し，人々の暮らしがよくなればいい。 ・この技術が人々のためになってほしい。 ・この技術が知れ渡り，国が豊かになってほしい。		o 公共のために役立てたいという長太郎の気持ちを感じ取らせる。 o 学級全体で話し合わせる。 補 長太郎はアメリカの工場で何を学んで来たのだろう。 補 長太郎は，どんな気持ちで陶土に変える技術を雑誌に発表しただろう。

指導する内容項目を端的に表す言葉は，すべて記述する。

(1)　価値観
(2)　児童観（生徒観）
(3)　教材観
と明記する。

(1)　学習指導要領の内容や解説の内容項目についての記述を十分に踏まえること。
(2)　この時期にこのねらいを取り上げる理由を児童生徒の具体的な実態を踏まえて述べる。
(3)　教材の取り扱い方や効果的な活用について明記する。

(1)　年間指導計画を踏まえてねらいを記述する。
(2)　本時の授業でねらいとする道徳的価値について明記する。
(3)　複数の道徳的価値をねらいとして構成しないように留意する。

複数時間行う内容項目についての同学年の道徳の関連を示す。
「教材名」（主題名）
複数時間行わないときは省略し，「５　学習指導過程」とする。

児童生徒の活動に対応した指導上の留意事項を書き，「o」で書き始める。
・指導の要点や方法
・発問の意図
・視聴覚機器の使用
・教材を示すときの注意事項
・その他留意しておきたいこと

基本発問は，四角囲みをする。

中心発問は，二重線で囲む。

補助発問は，点線の罫線で囲み 補 で書き始める。

展開		32	評長太郎の考えから，人の役に立つことのすばらしさに気付いている。 （話し合い）
	長太郎にとって，人の役に立つということは，どんなことだろう。		
	・今よりもみんなが豊かになること。 ・社員や家族が幸せになること。 ・世の中のために働くことは生きる幸せになる。	40	o 中心発問から出た，人の役に立つという視点から，公共の精神についての考えを深める。 o 長太郎が惜しむことなく技術を公開したことを押さえる。
終末	3　気付いたことを基に，自己を見つめる。		
	今日の授業でどんなことを学びましたか。		
	・働くことは，お金をもうけるだけでなく，人のためになる。 ・生活の中で，人のためになることをしてみたい。 ・困っている人がいたら，助けてあげたい。	45	o 授業で感じたことや考えたことを，ワークシートに自分の言葉でまとめさせる。 o ワークシートに記入している内容を机間指導で把握する。 評働くことの意義や公共の役に立つことについて考えている。 （ワークシート）

価値の把握の発問は，四角囲みをする。

経過予定時間を学習の区切りごとに示す。また，罫線で区切る。

価値の自覚の発問は，四角囲みをする。

「評」には，学習活動の流れの中での評価の観点を記述する。評価方法については（　）内に略記する。

7　本時の評価

o 働くことは，単にお金儲けをするだけでなく，公共のために役に立つ側面があるということについて考えている。（話し合い，ワークシート）

本時の学習を通して目標がどの程度達成できたかを確かめる観点を示す。
評価方法については，右詰で（　）内に略記する。

8　備　　考

o 知多半島出身の著名な人物に着目し，自分たちの住む地域に近いところで大きな社会貢献をした人物を取り上げることで，親しみを感じながら学習できるようにする。
o 補助発問を用意し，長太郎の気持ちに深く迫ることで，社会に奉仕することの意義について，より一層考えられるようにする。

9　指導と評価

指導後の反省を記入して保存しておきたい。
・主題を取り上げる時期はよかったか。
・教材は適切であったか。
・ねらい，内容，時間に問題はなかったか。

1～7に書かなかったことで，本時の指導上必要なことがらを示す。
・教科用図書を使用せず，副読本等を使用した意図
・特殊な指導形態をとった場合の根拠
・他領域，教科との関わり
・学校の現職教育の主題を踏まえた授業構成や手だて
・事前や事後の指導の工夫
・その他，板書計画や座席表等

道徳科の学習指導過程には特に決められた形式はない。
一般的には「導入→展開→終末」と各段階を設定する方法が広く行われている。「導入→展開（前段）→展開（後段）→終末」や「方向付け→価値の追求・把握→価値の自覚→まとめ」といった設定をすることもある。

学習指導案には，児童生徒がねらいとする道徳的価値の自覚を深めるために，教材を活用して，どのような手順で指導をすすめるのかを示す。

1　----------児童生徒の認識過程をふまえた各段階における児童生徒の活動
o　----------具体的な学習活動
・　----------予想される児童生徒の反応（具体的な学習活動を明記する必要がないときはoの位置から書き始める）

基　本　発　問
人間関係を把握したり，状況をつかんだりするための補助的な発問。
教材により省略することもある。

中　心　発　問
本時のねらいとする価値に迫るための多様な価値観を引き出す発問。
読み物教材中の主人公等が「ねらい」とする価値を十分把握できず，悩んだり苦しんだりする場面で設定されることが多い。

価値の把握の発問
本時のねらいを把握することができる，主人公の気持ちを問う発問。
主人公が本時のねらいとする価値に気付き，よりよく生きていこうとする場面で設定されることが多い。

価値の自覚の発問
本時に学んだことを通し，今までの自分自身を振り返る発問。
基本的には，主人公と同じような経験を問い，今までの生活を振り返らせることになるが，対話や小集団による話し合い，主人公へ手紙を書かせるなどの工夫をすることで指導効果を高めることができる。

補　助　発　問
本時のねらいにせまるために，本音を引き出し，考え方を深めるため，掘り起こしや切り返しの追発問で，中心発問に対して設定する。

◆ 発問に対して児童生徒の予想される発言は……
・共感や批判で分類したり，価値観により類型化したりするなど工夫して記す。
・価値の低いものから順に記す。
・体言止めの文末には句点を付けない。